四国の蛾の分布資料 (IX)
対馬から既知の2種の四国における発見

増井武彦

香川県高松市扇町 1-25-51

Notes on the Moths of Shikoku (IX)
Discovery in Shikoku of Two Species Formerly Only Known from the Island of Tsushima

Takehiko MASUI

対馬には本土に産しない生物地理上興味ある鱗翅類が生息している．蝶類では，ツシマウラボシシジミ，タイワンモンシロチョウが有名である．蛾類でも，ツシマキシタヨトウ，*Hybocampa tokui* SUGI，フサオシャチホコ，ワタナベヒメエダシャクなどいくつかの種が知られている．ここに発表する2種の蛾もそのような種である．キイロミミモンエダシャクは，瀬戸内海上の小豆島で小豆島高等学校の生物部員によって3年連続，エサキマダラは，香川県本土側の比較的海岸近くの五剣山で採集された．

今回対馬以外から始めて記録されるこの2種が永らく未発見だったのは，その生息地が低地の海岸近くにあるとすると，早くから開発が進行しているので，本来の産地が，ほとんど姿を消してしまっているからであろう．また一方では，同好者の蛾類の調査の足が，種類数の多い山地に向いてしまい，低地での調査が不充分であることも一因であろう．今後，低山地の細かい調査が行われれば，必ず，新たな産地が西南日本から発見される可能性が大いに期待できる．

発表に先立ち，常日頃，同定ならびに種々御教示を賜っている井上寛博士に心から感謝する．また，キイロミミモンエダシャクのデータ公表を筆者に委られ，貴重な標本を恵与された小豆島高等学校生物部顧問矢野重文先生，部員の山口昌夫，上谷保則，三好希君に感謝する．また一部文献の援助を願った中島秀雄氏，写真の撮影を願った串田光祥氏にお礼申し上げる．

Eilicrinia parvula WEHRLI
キイロミミモンエダシャク (Fig. 1)

本種は，大陸系で中国南部に分布する蛾である．対馬の久原で，津田美智夫氏が 1956 年9月9日と9月13日に採集した2♀の標本に基づき，井上 (1958) が原色日本蛾類図鑑に発表し，井上 (1959) の原色日本昆虫大図鑑に図示された．対馬でもその個体数は少なく，その後，1966年に橋本芳幸氏採集の厳原 1♀，佐須奈 1♀ (田中，1970) と，ごく最近，初の 1♂ (宮田，1976) が得られたのみであった．

この珍らしい蛾が小豆島で小豆島高等学校の生物部員によって採集されたという意外なニュースは，昭和 51 年 10 月 15 日の朝日新聞の地方版で大きく取扱われた．筆者は早速，同校を訪れ，本種を確認するとともに，貴重な標本をゆずりうけた．Fig. 1 に示した個体が，その標本であり，現在は井上博士の許で保管されている。さらに，追加標本が採集されたことが再度朝日新聞に報道された (昭和53年7月12日)．採集地は海岸線より 30 m ほどにあるオリーブユースホステルの水銀灯 (小豆郡内海町西村) である．現在まで3年連続して次の4個体が得られている．

1♂, 10. IX. 1976 (山口昌夫・上谷保則採集，井上寛博士保管)；1♂, 1. IX. 1977 (三好希採集，生物部保管)；1♂, 26. VI. 1978 (三好希採集，筆者保管)；1ex, 3. VIII. 1978 (三好希採集，三好保管).

本種の発生期は，対馬でのデータから推定すると8月上旬と9月下旬である．また，小豆島でも9月に得られている．1978年度には6月下旬にも得られている。以上の事実からすると年 2～3 回は発生を繰り返していると思われる．

本種の食樹は，すでに中島 (1976) によって，対馬で *Ulmus parvifolia* アキニレであることが確認されている．アキニレは九州から近畿地方まで分布し，本種の分布とよく一致している．小豆島でもアキニレは，海岸近くに普通に自生しており，ところによっては小群落を形成している．こういう植生が今まで本種の生息を可能にさせていると思われる．しかし，このような環境は，すぐにも人為的に破壊される危険性が高いので，発生地の自然環境の保全が強く望まれる．
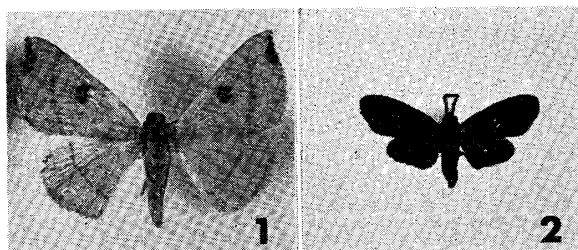
Fig. 1. *Eilicrinia parvula* WEHRLI ♂. Shikoku: Shôdoshima, 10. IX. 1976.
Fig. 2. *Clelea esakii* INOUE ♂. Shikoku: Mt. Gokenzan, 29. VI. 1977.

Clelea esakii INOUE
エサキマダラ (Fig. 2)

本種は，1956年8月31日，対馬の厳原で津田美智夫氏によって採集された 1♂4♀ の標本に基づき，INOUE (1958) により記載された．近似種として，インド産の *C. discriminis* SWINHOE がある．また，井上博士の御教示によれば，よく似た標本が台湾でも得られているという．しかし，その後，国内ではどこからも産地が知られず，珍らしい種である．

筆者は，香川県下の高松市近郊の五剣山 (標高 200 m) の夜間採集で次の通り 1♂ を採集した．前翅には弱いながら青監色の金属光沢が発達しており，美しい蛾である．

1♂, 29. VI. 1977 五剣山：香川県木田郡牟礼町 (筆者採集，井上寛博士保管).

最近，杉 (1978) は，蛾の国内分布のうち朝鮮—対馬—瀬戸内型の蛾を考えている．これに属する種として，コマルモンシロガ，コシロオビドクガ，シノノメシャチホコ，オオシモフリスズメがあるという．また，対馬特産種の一部は，この型の縮少したものと考えている．今回，対馬特産種と思われていた蛾が瀬戸内海地域で発見されたことは，上記の対馬—瀬戸内海型の考えを支持する1例と見ると興味深い事実と思われる．

文　献

INOUE, H., 1958. A New species of the Zygaenidae from Tsushima, Japan. *Kontyû*, **26**: 238–239.
井上　寛，1958. 原色日本蛾類図鑑(上). 284. 保育社，大阪.
——— 1959. 原色日本昆虫大図鑑，**1**: 222, pl. 159, fig. 5. 北隆館，東京.
宮田　彬，1976. 対馬特産エサキマダラ. 対馬の生物，352. 長崎県生物学会.
——— 1976. キイロミミモンエダシャク. 対馬の生物，462. 長崎県生物学会.
中島秀雄，1976. シャクガ科幼虫の知見 (X). 誘蛾燈，(65): 97–98.

田中　蕃，1970. 対馬産蛾類若干の記録. 蛾類通信，(61): 3–7.
杉　繁郎，1978. 日本鱗翅学会第25回大会一般講演要旨： オオシモフリスズメの分布. 蝶と蛾，**29**: 248–249.

Summary

Four males of *Eilicrinia parvula* WEHRLI were captured at the Island of Shôdoshima in Kagawa Pref. One male of *Clelea esakii* INOUE was captured at Gokenzan (alt. 200 m) in Kagawa Pref. in Shikoku. Both species had been known only from the Island of Tsushima within Japanese fauna.